

囚人船（1956）

メディア 映画
ジャンル
製作国 日本
色彩 B&W
時間 106分
初公開日 1956/08/08

【解説】
菊田一夫の原作をもとに「決闘巖流島」の稲垣浩が脚本・監督を務めた海洋活劇。「彼奴（きゃつ）を逃すな」の村田武雄が共同で脚本を執筆した。撮影は「黒帯三国志」の飯村正、音楽は「三つ首塔」の仁木他喜雄が担当。三船敏郎と岡田茉莉子が「ならず者」に続いて共演を果たしている。
舞台は昭和九年の浦賀港。刑務所船の平安丸に収容された少年囚たちは、海員として更正できるよう水兵と同じ厳しい訓練を受けていた。彼らの楽しみは遠洋漁業で、遠洋漁業船である愛天丸の新船長として松尾徳造が赴任してくる。松尾は少年囚たちに嫌われ、また漁撈長の猪ヶ谷にも文句を言われた。愛天丸は二十五人の少年囚を乗せて出港し、魚群を求めて南下を始めた。順調に見えた船上生活も、少年囚と猪ヶ谷との対立から、ついには少年たちのストライキにまで発展。少年囚たちは船を占拠しようとするのだったが…。

【クレジット】
監督 稲垣浩
製作 堀江史郎
原作 菊田一夫
脚本 稲垣浩
村田武雄
撮影 飯村正
美術 北猛夫
安倍輝明
音楽 仁木他喜雄
助監督 福田純
出演 三船敏郎 Toshiro Mifune 松尾徳造（愛天丸の船長）
岡田茉莉子 みき（松尾の妻）
田崎潤 猪ヶ谷彦松（愛天丸の漁撈長）
小杉義男 前田洋治（戒護部長）
小泉博 蒔富泰助（通信長）
稲葉義男 谷口正（機関長）
桜井巨郎 西野八郎（看守）
田島義文 酒井忠夫（運転手）
岡部正 看守
海上日出男 機関部
緒方燐作 操舵（一）
福田和郎 操舵（二）
手塚勝巳 操舵（三）

向井淳一郎	操舵（四）
中島春雄	漁撈（一）
松尾文人	漁撈（二）
佐藤功一	漁撈（三）
大塚国男	綾部建次（少年囚七期生）
山本廉	金越英助（少年囚七期生）
稲垣靖	佐倉留一（少年囚七期生）
今泉廉	野々宮久六（少年囚八期生）
枕島洋一	山田信近（少年囚八期生）
細井重之	佐藤進二郎（少年囚八期生）
上村幸之	安城忠夫（少年囚九期生）
中谷一郎	根上金次（少年囚九期生）
高三寿次郎	野田浜太郎（少年囚九期生）
重信安宏	千田八三（少年囚九期生）
増田卓	手塚三郎（少年囚九期生）
矢田稔	津田兼松（少年囚九期生）
小林和夫	立花宏（少年囚九期生）
大村千吉	上川康一郎（少年囚九期生）
水谷勇	西村与一（少年囚九期生）
黒岩小枝子	秀子（千田の姉）
上田吉二郎	綾部の父
音羽久米子	綾部の母
上野明美	綾部の妹
西条悦郎	桶屋の主人
馬野都留子	その妻
平三富子	お咲（料亭の女中）
上野洋子	千代（料亭の女中）
三田照子	あさ子（酌婦）
東静子	梢（酌婦）
竜見俊子	女学生A
岩本志津子	女学生B
北野八代子	見取りの少女
河美智子	見取りの少女
米村佐保子	見取りの少女
若水玲子	見取りの少女
清水元	浅倉安造（海上刑務所所長）
熊谷二郎	海上刑務所看守長
須田準之助	海上刑務所看手
津田光男	海上刑務所担当者
瀬良明	海上刑務所指導者
坂本晴哉	海上刑務所無電係
増田正雄	赤ん坊を背負った老爺